



# はばたき TEA TIME

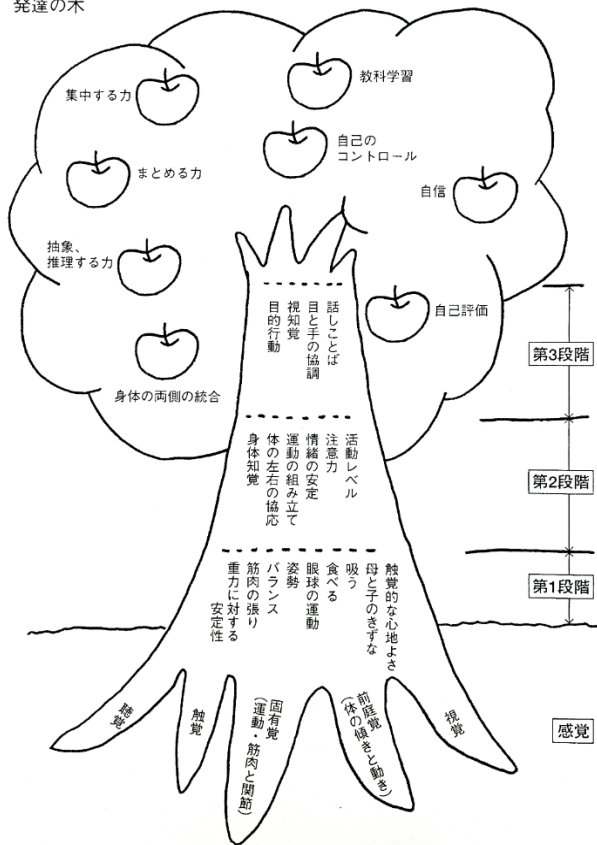


## ～大きな実をそだてるために～

「字の形が整わない」「気持ちのコントロールがむずかしい」…子どもの課題としてよく挙げられるものです。難しさのある子どもに「集中しなさい!」「きれいな字を書いて!」と言っても、なかなか効果が薄く、さらに意欲が下がってしまうこともあります。

下の図をご覧ください。「発達の木」といいます。「感覚統合」という考えの中で子供の発達を木に例えたものです。この図では、自己コントロール・教科学習・集中力…など、学校で求められる力の多くは発達の木の“実”の部分にあたります。“実”を大きく育てるには、太い幹が必要です。太い幹にするためには、しっかりとした根っこが必要です。

発達の木



### 小学校就学以降

読み書き計算 抽象、推理する力 集中する力  
気持ちのコントロール など

### 第3段階 6歳ごろ

目で見たとところに正確に手がいく 言葉が発達する  
形や音を区別する 目的をもった行動ができる

### 第2段階 4歳ごろ

自分の体の各部位が分かり、思うように動かすことができる

### 第1段階 2歳ごろ

他者との触れ合い 絆ができる  
筋肉に張りができ、姿勢を保ったりバランスをとったりする

第3段階までの感覚の統合が基礎となって、集中力や自分をコントロールする力、学習能力や社会性が大きな実として発達していきます。しかし感覚の取り入れ方は人それぞれなので、途中の段階でつまづいたり、一部だけ発達しにくかったりすることもあります。はばたきの指導では、根っこや幹の部分に注目して指導をしていくことが多くあります。「漢字の形が整わないのに、運動するの?」「いつも遊んでばかりいる」という内容があるかもしれません。それは大きな“木の实”を育てるために必要な、前の段階を育てているためです。

「能動的に学ぶ」ことが習得への一番の近道です。「能動的」とは、自分から進んで楽しく行えるということです。子供たちには「はばたき楽しかった」と言ってもらえるように、指導者側は意図をもった課題設定をしていきます。

